

わかるは楽しい 富士塾通信 七月号

今年の夏は、猛暑？

六月二十日、沖縄県は例年より一日速く梅雨明けし、連日三十度以上の真夏日を迎えています。ほんの二、三か月前はダムの貯水量が四〇%を切ろうとして断水寸前でした。それが梅雨の恵みの雨のお陰でほとんどのダムが貯水率百%を超えて、ダムから水があふれ出す越流（オーバーフロー）が見られるまでになっています。毎年のように断水を経験していた昭和時代の人間からすると、本当に良かったとホッと一安心しています。

しかし、その一方で今年の夏は、統計開始以来最も暑かった昨年に匹敵するほどの猛暑になりそうです。屋外での活動はもちろんのこと、室内での熱中症対策にも心がけて下さい。

定期テストは本当にいらないの？

鏡原中学校が、「来年度までに全ての定期テストを廃止する。」という方針を打ち出してから三か月が経過しました。今年度は、中間テストを廃止して期末テストのみ行い、週一回の単元テストを実施しています。このように、定期テストを廃止する学校は珍しくなく、数年前から全国的に出始めています。沖縄県でも、中部と北部地区から始まり、昨年からは島尻地区でも行われています。評判の方は賛否両論で、メリット・デメリット両方あります。

廃止の目的はいろいろあるようですが、学校の先生方の負担を減らすというのは違うようです。定期テストを廃止しても単元テストの回数が増えるので、真面目な先生程、その負担は増えるようです。そして、定期テストを廃止してもしなくても、自主的に学習計画を立てて勉強のできる成績上位の生徒と、学習意欲のない成績下位の生徒達は、ほとんど影響がないということでした。しかし、それ以外の中間層の人たちは、高校入試のときに点が取れずに一番影響を受けてしまうそうです。

そもそも、この改革を初めに行ったのは、東京都の千代田区立の中学校の工藤勇一校長です。工藤校長はその中学校で様々な改革を行いましたが、その中の一つが「定期テストの廃止」ということでした。『本来、テストをやる目的は、生徒自身が「自分の中に学力が定着しているか」を確かめるためにあるもの。』ということに立ち返り、定期的ではなく、単元が終わるごとに行う単元テストを実施することにしたそうです。そして、その単元テストも1回で終わりではなく、本人が希望すれば再テストを実施し、良い方の点数が成績に反映されるということでした。つまり、定期テストを廃止することは、採点や評価をする側の都合ではなく、生徒が自主的に学習するということを目的に始まったということです。

鏡原中学校も、今、始まったばかりで試行錯誤していると思いますが、学校全体が納得できる形で行われることを願います。

◇七月予定行事◇

- ▽一学期中間テスト（鏡原中）… 一日・二日
- ▽海の日 … 十五日